

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F133310109554	設置等組織名	生物地球学部（恐竜学科）、通信教育部情報理工学部（情報理工学科）
大学名	岡山理科大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	岡山県	事業計画名	岡山理科大学における「新しい未来を切り拓く“探究心”あふれるデジタル人材育成事業」

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和6年3月 通信教育部情報理工学部情報理工学科 設置認可申請予定 令和6年4月 生物地球学部恐竜学科 設置届出予定	令和6年3月 通信教育部情報理工学部情報理工学科 開設認可申請 令和6年4月 生物地球学部恐竜学科 設置届出 令和6年6月 通信教育部情報理工学部情報理工学科 開設認可補正申請		
フェーズ1 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	(生物地球学部恐竜学科) 2-① 令和6年4月～ 生物地球学部恐竜学科実習室改修 2-② 令和6年4月～ 生物地球学部恐竜学科教育研究機器整備 (通信教育部情報理工学部情報理工学科) 2-③ 令和6年8月～ 通信教育部情報理工学部情報理工学科B5号館5階改修 2-④ 令和6年4月～ 通信教育部情報理工学部情報理工学科LMSの導入 2-⑤ 令和6年9月～ 通信教育部情報理工学部情報理工学科mylogサーバの導入	(生物地球学部恐竜学科) 2-① 令和6年12月～令和7年3月 生物地球学部恐竜学科実習室改修 2-② 令和7年3月 生物地球学部恐竜学科教育研究機器整備 (通信教育部情報理工学部情報理工学科) 2-③ 令和6年8月～9月 通信教育部情報理工学部情報理工学科B5号館5階改修 2-④ 令和6年11月 通信教育部情報理工学部情報理工学科LMSの導入 2-⑤ 令和7年1月 通信教育部情報理工学部情報理工学科mylogサーバの導入	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。

開設 又は定員増		令和7年4月 生物地球学部恐竜学科 開設予定（入学定員45人、理学関係） 令和7年4月 通信教育部情報理工学部情報理工学科 開設予定（入学定員200人、編入学定員 2年次10人、3年次20人、理学関係、工学関係）	令和7年4月 生物地球学部恐竜学科 開設（入学定員45人、理学関係） 令和7年4月 通信教育部情報理工学部情報理工学科 開設（入学定員200人、編入学定員 2年次10人、3年次20人、理学関係、工学関係）		
	フェーズ2 後倒し			○年度自己 評価	リストから選択してください。
	フェーズ3	(生物地球学部恐竜学科) 3-① 令和7年4月～ 講義や実習へのデジタル情報活用と充実を目的としたモンゴル産恐竜化石の野外調査・収集・デジタルデータ保存 3-② 令和7年4月～ モンゴル人研究者招聘 3-③ 令和7年4月～ 生化学的な講義・実習へ使用される化石標本類の選定に関わる生化学的実験 3-④ 令和7年4月～ 国際的かつ最新の化石研究を取り入れた国内外化石研究者招聘 3-⑤ 令和7年4月～ 複雑で専門的な書類業務担当の補助員の雇用 3-⑥ 令和7年4月～ 最新情報の学科パンフレット及びホームページの構築と運用 3-⑦ 令和8年4月～ 複数国に保存される化石標本の形態情報、デジタル化された形態情報による多様化された情報収集 3-⑧ 令和9年4月～ 専門実習の開始と、化石標本の適切な情報収集と取得 3-⑨ 令和10年4月～ 蓄積された各種デジタル情報等を活用した卒論研究の実施 (通信教育部情報理工学部情報理工学科) 3-⑩ 令和7年4月～ LMSの利用による円滑な授業運営及び2年次生向けコンテンツ作成 3-⑪ 令和7年4月～ LMSの保守（障害対応、システムのアップデート等）による円滑な授業運営の維持 3-⑫ 令和8年4月～ LMSの利用による円滑な授業運営及び3年次生向けコンテンツ作成 3-⑬ 令和8年4月～ LMSの保守（障害対応、システムのアップデート等）による円滑な授業運営の維持 3-⑭ 令和9年4月～ LMSの利用による円滑な授業運営及び4年次生向けコンテンツ作成 3-⑮ 令和9年4月～ LMSの保守（障害対応、システムのアップデート等）による円滑な授業運営の維持 3-⑯ 令和10年4月～ LMSの利用による円滑な授業運営 3-⑰ 令和10年4月～ LMSの保守（障害対応、システムのアップデート等）による円滑な授業運営の維持		○年度自己 評価	リストから選択してください。
				○年度自己 評価	リストから選択してください。
				○年度自己 評価	リストから選択してください。
	定員減又は 学部等の廃止	令和6年4月 生物地球学部生物地球学科20人減員に係る届出予定（入学定員120人 理学関係） 令和7年4月 生物地球学部生物地球学科20人減員予定（入学定員120人 理学関係） 令和6年4月 教育学部初等教育学科10人減員に係る届出予定（入学定員60人 教育学・保育学関係） 令和7年4月 教育学部初等教育学科10人減員予定（入学定員60人 教育学・保育学関係） 令和6年4月 教育学部中等教育学科10人減員に係る届出予定（入学定員50人 教育学・保育学関係） 令和7年4月 教育学部中等教育学科10人減員予定（入学定員50人 教育学・保育学関係） 令和6年4月 理学部臨床生命科学科50人募集停止に係る届出予定（理学関係） 令和10年4月 理学部臨床生命科学科50人廃止予定（理学関係） 令和6年4月 工学部生命医療工学科25人募集停止に係る届出予定（工学関係） 令和10年4月 工学部生命医療工学科25人廃止予定（工学関係）	令和6年4月 生物地球学部生物地球学科20人減員に係る届出（入学定員120人 理学関係） 令和7年4月 生物地球学部生物地球学科20人減員（入学定員120人 理学関係） 令和6年4月 教育学部初等教育学科10人減員に係る届出（入学定員60人 教育学・保育学関係） 令和7年4月 教育学部初等教育学科10人減員（入学定員60人 教育学・保育学関係） 令和6年4月 教育学部中等教育学科10人減員に係る届出（入学定員50人 教育学・保育学関係） 令和7年4月 教育学部中等教育学科10人減員（入学定員50人 教育学・保育学関係） 令和6年4月 理学部臨床生命科学科50人募集停止に係る届出（理学関係） 令和10年3月 理学部臨床生命科学科50人廃止予定（理学関係） 令和6年4月 工学部生命医療工学科25人募集停止に係る届出（工学関係） 令和10年3月 工学部生命医療工学科25人廃止予定（工学関係）		

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	岡山理科大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	（恐竜学科）入学定員を充足した。 （情報理工学科）入学定員充足率は68.5%となり、計画どおりに進んでいるとは言えない。 事前のニーズ調査の結果から、社会人学生の入学を見込んでいたが、実際は、高等学校新卒または卒業して1年以内の若い学生の入学が約半数であった。多子世帯の学生、近隣に大学のない地域、家庭の事情で親元を離れられないなどの志願理由から、通学が不要で学費を抑えられる通信制の大学教育への需要が、若い層にもあるということを確認できたので、今後はこの層に向けた広報戦略を展開していく。 また、ニーズ調査から社会人の潜在的需要の高さは明らかであるが、仕事をしながら学習時間を確保することは困難であるため、従業員が学習時間を確保できるような支援を講じてもらうよう、企業や自治体に対して働きかけていく。具体的には、スキルアップ支援として大学の通信教育の活用を提案し、従業員教育として企業等サイドから社会人学生を支援するよう働きかけていく。				
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	岡山理科大学
-------------	-------	-----	--------

⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑥	特定成長分野に係る学部を設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	岡山理科大学
-------------	-------	-----	--------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和 5 年 4 月13日文部科学大臣認可）六（ 2 ） ②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■ チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■ チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	岡山理科大学
-------------	-------	-----	--------

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
（恐竜学科） 「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を通して、株式会社ウエスコや西谷技術コンサルタント株式会社より技術者を講師として招き、自然・環境・生物多様性の保全などの分野における各種業務や恐竜研究に係る知識や技術との関連性、業務遂行に必要な技術及び知識などについての指導を実施する予定である。また、医療従事者（医師、歯科医師、臨床検査技師等）や基礎医学の研究者を講師として招き、当該分野のほか製薬系・化粧品・食品などの医学や生活に関連した業界の企業研究についての指導も計画している。また、自治体と連携し、地方の博物館等における各種業務や社会教育活動について、「恐竜学博物館演習」や「恐竜学博物館実習」、「モンゴル発掘エクスカーション」を通して、古生物学研究の成果の社会への還元といったPBL型の課題を設定し、恐竜学博物館と連携することで、学生自らが課題を発見し解決する機会を創出する。 （情報理工学科） 複数の企業と協力関係を構築し、企業の技術者を非常勤講師として招き特色のある専門教育を実施する計画である。具体的な企業名及び開講科目を次に示す。 日本IBM株式会社：「情報セキュリティ論」「生成AI論」（2科目） 株式会社トマト銀行：「簿記基礎」「簿記原理」「ファイナルシャルプランニング」「財務諸表論」（4科目） RSK山陽放送株式会社：「映像ストーリー制作論」「映像制作技術論」（2科目） Ainy合同会社：「キャラクターデザイン」「アニメーションデザイン」「メディアアート」（3科目）	（恐竜学科） 2024年度は、地質および建設コンサルタント5社（株式会社ウエスコ、西谷技術コンサルタント株式会社、日本基礎技術株式会社、株式会社昭和ボーリング、株式会社地圏総合コンサルタント）の採用担当者と面談を行い、地質・建設コンサルタントへの就職を希望する生物地球学科恐竜・古生物学コースおよび恐竜学科の学生に求める学習や経験および希望・要望および就職後のキャリア等に関する情報交換を行った。また、医療従事者（医師）1名と面談を行い、恐竜学科卒業生の医薬品卸業分野における採用の可能性について助言をいただいた。2025年度は、恐竜学科学生へ向けて、地質古生物系だけでなく生命科学系分野のキャリア指導を予定している。 （情報理工学科） 複数の企業と協力関係を構築し、企業の技術者を非常勤講師として招き特色のある専門教育を実施する計画について、岡山市北区に本社のある株式会社トマト銀行及びRSK山陽放送株式会社とそれぞれ1回ずつ、教材制作スケジュールのすり合わせを行った。日本IBM株式会社とはオンライン会議により授業内容の打ち合わせを2回実施した。令和7年度秋学期に開講する「アニメーションデザイン」のため、Ainy合同会社と講師派遣の協定書を締結した。申請時の計画では4社であったが、連携企業を増やすことで教育内容を充実させるため、一般財団法人両備ハッピーライフとの連携を追加し、「簿記基礎」「簿記原理」の担当とし、令和7年度春学期開講の「簿記基礎」の動画を制作した。 具体的な企業名及び開講科目を次に示す。 日本IBM株式会社：「情報セキュリティ論」「生成AI論」（2科目） 株式会社トマト銀行：「ファイナルシャルプランニング」「財務諸表論」（2科目） RSK山陽放送株式会社：「映像ストーリー制作論」「映像制作技術論」（2科目） Ainy合同会社：「キャラクターデザイン」「アニメーションデザイン」「メディアアート」（3科目） 一般財団法人両備ハッピーライフ「簿記基礎」「簿記原理」（2科目） 以上、計画どおり、企業と連携した科目の整備を進めている。	（恐竜学科） 「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」は4年次配当科目であるため、現在は3年後に向けた準備を進めている。具体的にはモンゴル科学アカデミー古生物学研究所を中心に、国内外の野外調査や標本へのアクセスに関する交渉や確認作業があげられる。「恐竜学博物館演習」や「恐竜学博物館実習」、「モンゴル発掘エクスカーション」も3年次配当科目であり、まだ開講に至っていないが、これらの講義・実習をより効果的な学びの機会とするために、また古生物学研究成果をモンゴルと日本の両国において効果的に社会還元するための方法について、恐竜学科と恐竜学博物館の担当者およびモンゴル科学アカデミー古生物学研究所所員の間で、具体的な研修・実習内容や期間等について打ち合わせを進めている。 （情報理工学科） 計画どおり実施できている。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	岡山理科大学
-------------	-------	-----	--------

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し
- ☐ チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☒ チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
（恐竜学科） a. 入学者選抜のうち総合型および学校推薦型選抜では、受験者の多様な学びをそれぞれ適切に評価する。また総合型選抜では、学科独自の事前課題を設け、一般選抜とは異なる受験生の学びの多様性を評価する。一般選抜では、国語のみならず、新しい学習指導要領となる地理歴史（地理総合や歴史総合）といった文系科目をも含む多様な受験科目を設定する。またオープンキャンパスの場を活用し、入学希望者の選択科目について情報収集を行い、恐竜学科の受験制度の普及と改善に努める。また、必要に応じて教育関連企業を交え、入試動向や受験生の受験科目ニーズの把握を試みる。 c. 恐竜学に関する教育研究活動を、周辺地域の小・中学校における出張講義や恐竜学博物館における講演会等で紹介し、科学への興味・関心の喚起を広く促す。また、近隣の初等中等教育からの総合的な学習の時間を利用した訪問や中学校職場体験について恐竜学博物館を通して積極的に受け入れる。さらに、岡山理科大学附属高校とは高大連携事業の一環として、恐竜学科の持つ教育研究コンテンツを体験する機会を充実させ、潜在的な理系人材の確保を図る。 e. 本大学および本学園が設置する大学の留学生別科留学生に加え、一般の国費・私費留学生を対象に広く英語による情報発信を行う。全ての恐竜学科教員は、海外研究機関との共同研究の実績を有している。また、3名の教員は海外留学を経験しているため、学修や生活における留学生との適切なコミュニケーションと指導方法の確立が期待できる。 （情報理工学科） d. 新設する情報理工学科において募集対象として最も高い比重を占めると予想されるのは、学生確保に関するアンケート調査において高い比率で入学の意思表示を示した社会人である。特に本学科では、全科目オンラインのメディア授業、スクーリングもオンラインのため通学不要、初年度納付金は入学金を含めて38万円と安価、などの特色を有している。これらの特色は、リカレントやリスキリングを目的として進路を選択しようとする社会人に、本学科を選択してもらう上でメリットと考える。ネット広告を活用し、こうした情報を通信制大学、そして情報分野に関心を持つ層に発信していく。また企業側からは、高卒者に対して、情報に関する知識や技術を学位と併せて取得しようとする従業員を応援したいという声も聞こえる。こうした企業から従業員への情報提供は社会人受け入れにおいて効果的と考えられるため、賛同を得られる企業を開拓していきたい。	（恐竜学科） a. 2025年度入試では、総合型選抜と特別推薦入試において多くの受験者のエントリーが得られ、15名の合格者を出すことができた。またオープンキャンパスなども利用して積極的な情報発信を行い、一般入試でも多くの受験生を得た。その結果、53名の入学生を迎えることができた。留学生や社会人の入学者も得られたため、彼らの希望や要望等（生涯学習）についても面談等を通して情報収集を行った。 c. 2024年度の取り組みとして、恐竜学博物館で中学校の職場体験（4件8名）のほか、小中学生・一般へ向けた講義・講演会等を25件42回実施した。このなかには、本学で開催したものだけでなく、学外からの依頼（17件）によるものも多く含まれている。このほか、地域の博物館や団体からの依頼に応じて、標本の貸し出しもおこなった。これらの活動は、広い年齢層へ古生物を通じた科学への興味・関心への喚起となったと考えられる。今後も、研究・教育コンテンツを体験する機会を充実させ、潜在的な理系人材の確保を図る。 e. 2025年度入試において、海外より恐竜学科へ2名の受験生が得られ、1名が入学した。このほか、学科および一部の教員によるSNSを介した情報発信を開始した。 （情報理工学科） d. 通信制大学や情報分野に関心を持つ層をターゲットにネット広告を11月～2月にかけて実施した。また、本学のキャリア支援部の企業データベースから2000社に、従業員教育・研修としての教育プログラムという視点で情報提供を行い、さらに企業懇談会に参加してリカレントやリスキリングを前面に押し出した広報活動を行った。社会人選抜を11月～3月にかけて6期にわたって実施したが、予想に反して、社会人入学者は全体の2割にとどまった。	（恐竜学科） a. 総合型選抜および特別推薦入試において多くの受験者が得られた一方で、時間の制約や受験者の学びに関する評価における情報の不足のために、恐竜学について自発的かつ積極的な学習や取り組みの経験を有す人物を適切に評価する体制が構築できていたとは言い切れず、改善が求められる。また、留学生や社会人の受験者も少なからず得られたため、彼らの希望や要望等にも配慮した入試体制の確立が必要であろう。一般入試においては、合格後の入学辞退者の予想が困難だったこともあり、厳しめの判定を行わざるを得ないことがあった。これについては、2025年度入試の実績をもとに改善が可能と考えられる。 c. 恐竜が関係するコンテンツに関する学内外からの講演やイベント等の依頼は多いが、すべてを引き受けると、学科教育・研究に影響が生じかねない。このため、依頼については、公共性や教育効果の観点に基づいた検討・対応を行う必要がある。 e. 英語による情報発信の準備がやや遅れている。学科教員は、英語を介したコミュニケーションに問題はないものの、留学生や海外の受験希望者との間をつなぐメディアを準備する必要がある。また、非英語圏からの留学生も入学してきているため、英語以外の言語を用いたコミュニケーション方法も準備できると良いと考えられる （情報理工学科） d. 課題は、社会人に届くための広報活動の改善と、選抜時期の再検討である。次年度入試に向け、企業をターゲットとする広報活動の拡大と秋入学も視野に入れた選抜時期の見直しを行う。

大学名	岡山理科大学
-----	--------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	岡山理科大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1815	2015																	
		入学者数	人	1438	1672																	
	その他の学期	入学定員	人	***																		
		入学者数	人	**																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,815	2,015																	
		入学者数(B)	人	1,438	1,672																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.79	0.83																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	7550	7750																	
		編入学定員	人	10	10																	
		在籍者数(D)	人	6409	6535																	
		編入学者数	人	6	5																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.85	0.84																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年														
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	290,030	375,015	376,771	427,745	425,064	475,418													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	392,283
本事業による助成金の額(F)	千円	262,715
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	398,851

特記事項